

# 上下水道耐震化計画の策定について

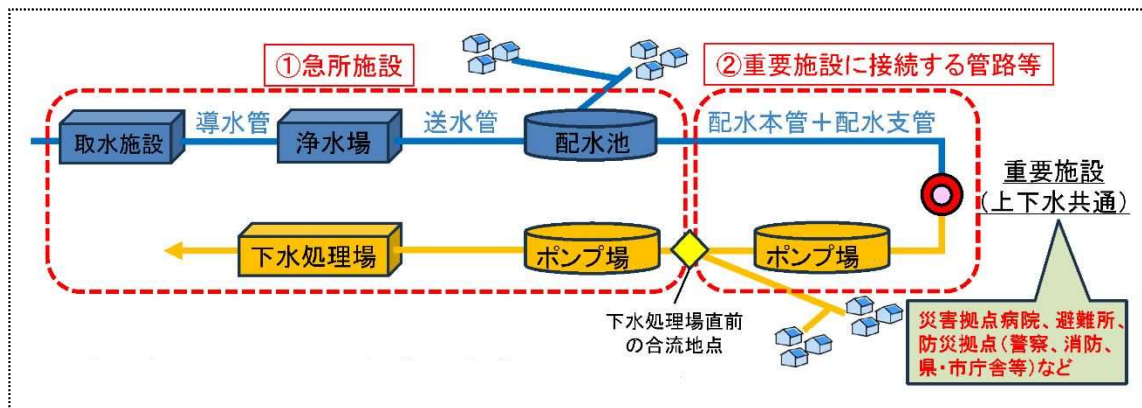
## 1 要旨

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、上下水道施設に甚大な被害を及ぼし、特に上下水道システムの急所施設における耐震化が未実施であったこと等により、復旧が長期化しました。このことから、災害時においても従前どおり水の使用を可能にするには、水道と下水道の両方の機能を確保することが重要であり、避難所等の重要施設に接続する上下水道管路等の耐震化を計画的・重点的に進める必要があるとして、令和6年9月に国土交通省から全ての水道事業者及び下水道管理者に対して、上下水道一体で耐震化を推進する計画期間が原則5年程度の『上下水道耐震化計画』を策定するよう要請があり、今般、『上下水道耐震化計画』の策定に至りました。

## 2 計画概要

### (1) 対象施設

- ①急所施設：その施設が機能を失えばシステム全体が機能を失う最重要施設  
(上水道：取水施設、導水管、浄水場、送水管、配水池、ポンプ所)  
(下水道：下水処理場並びに下水処理場から下水処理場直前の最終合流地点までの下水道管路及びポンプ場)
- ②重要施設に接続する管路：避難所等の重要施設に接続する上下水道管路



- (2) 計画期間：令和7年度から令和11年度（5年間）

(3) 耐震化率の現況及び目標

① (上水道) 急所施設の耐震化率・耐震適合率

区分	現況 (R5年度末)	目標 (R11年度末)
取水施設(耐震化率)	0%	23%
浄水施設(耐震化率)	0%	23%
配水施設(耐震化率)	22%	27%
ポンプ所(耐震化率)	0%	23%
導水管(耐震適合率)	5%	5%
送水管(耐震適合率)	37%	40%

② (上水道) 重要施設に接続する水道管路の耐震適合率

区分	現況 (R5年度末)	目標 (R11年度末)
配水本管+配水支管(下水道処理区域内)	22%	28%
配水本管+配水支管(下水道処理区域外)	7%	7%

③ (下水道) 重要施設に接続する下水道管路の耐震化率

区分	現況 (R5年度末)	目標 (R11年度末)
耐震性能確保済みの延長(耐震化率)	100%	100%

④ (下水道) 重要施設に接続するポンプ場の耐震化率

区分	現況 (R5年度末)	目標 (R11年度末)
耐震性能確保済みの箇所数(耐震化率)	100%	100%